



## 山梨学院短期大学

### PROPERTIES - 専門職として社会に貢献する力を卒業時に学生が確実に身につける -

#### 【取組の概要】

本取組では、各科12におよぶディプロマ・ポリシーを3つの要素「専門的知識Professional Knowledge」「専門的実践力Professional Performance」「総合的人間力Total Abilities」でとらえ、「外部評価の導入による学修成果を学内・学外の両輪で評価する仕組み」、「学修成果を目に見える形で社会に提示していく仕組み(学修成果レーダーチャート)」を開発・整備し、これらをいかして、「学生の主体的な学びの促進や学修時間の増加等、教育活動を改善」する。この一連の取組をPROPERTIESと呼び、これにより「卒業時における質保証」を強化する。

#### 【取組のポイント】

- ▶ 学修成果(ディプロマ・ポリシー)を3つの要素(専門的知識、専門的実践力、総合的人間力)で概念化
- ▶ 学修成果を学内・外の両輪で評価(学修成果に対する外部評価の導入)
- ▶ 学修成果を目に見える形で社会に提示(「学修成果レーダーチャート」の導入)
- ▶ 教育活動の改善(タブレットを活用した先進的な学修支援システム「PROPERTIES e-learning」の構築)



#### 【キーワード】

「専門的知識」、「専門的実践力」、「総合的人間力」、「学外助言評価委員会」、「学修成果レーダーチャート」、「学修支援システム」

#### 【人材育成目標】

食物栄養科、保育科からなる本学は、「智と情と勇気をそなえ、実践を貴んで、社会に貢献する人間を育成する」という教育理念のもと、栄養士、製菓衛生師、保育士、幼稚園教諭等、「食と健康」、「教育と児童福祉」の分野で「社会に貢献する」専門職の養成に努めてきた。社会のニーズ、中教審答申、政府方針等をふまえて、現在まで数多くの教育改革に取り組んできたが、それらは一貫してこの「『社会に貢献する』専門職の養成」の充実を目指している。本取組も、本学の一連の教育改革の1つとして位置づくものである。

#### 【教育上の課題】

本学では、2008年度に教育改革の一環として、各科・コースに具体的な「ディプロマ・ポリシー(卒業までに身につけさせたい能力)」を定め、これに対応した教育課程を構造的に編成した(本学ではこれを「カリキュラム・ポリシー(教育課程編成の考え)」と呼ぶ)。また、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づいて「アドミッション・ポリシー(本学が求める入学生像)」を定めた。

ディプロマ・ポリシー(以下、DP)に関しては、「卒業時学修成果の学内評価と社会からの評価とのズレ」と「学生の学修時間の不足」が問題点として明らかになった。そこで、本取組を通して、各科12におよぶDPを3つの要素「専門的知識Professional Knowledge」「専門的実践力Professional Performance」「総合的人間力Total Abilities」でとらえ、「学修成果を学内・学外の両輪で評価する仕組み」、「学修成果を目に見える形で社会に提示していく仕組み」を開発・整備し、これらをいかして、「学生の主体的な学びの促進や学修時間の増加等、教育活動の改善」を図ることとした。

#### 【これまでの取組、実績・成果】

##### <取組①学修成果を3つの要素で概念化>

「学外と共有する明確な評価視点」を設定すること、単なる資格取得に留まらない「社会に貢献する力」の獲得を「出口を見据えた学修成果の目標」として設定することを目指して、学修成果(ディプロマ・ポリシー)を3つの要素(「専門的知識」「専門的実践力」「総合的人間力」)で概念化した。

##### <取組②学修成果を学内・外の両輪で評価>

「専門的知識外部試験」を全科全コースで実施した。学外助言評価委員会との協働により、「専門的実践力外部試験」を食物栄養科全コースで実施、保育科では実施に向け要項を作成した。また、同委員会との協働により、「ボランティア・パスポート」を全学に導入した。

[専門的実践力外部試験]



食物栄養科 栄養士コース



食物栄養科 パティシエコース



[ボランティア・パスポート]

##### <取組③学修成果を目に見える形で社会に提示>

学外助言評価委員会との協働により、「学修成果レーダーチャート」の開発を行った。

##### 学修成果レーダーチャート(学修成果証明書) 表示項目

- ・3つの要素ごとの内部評価および外部評価
- ・授業外学修時間
- ・取得資格
- ・卒業レポートのテーマ等

##### <取組④教育活動の改善>

「学修支援システムPROPERTIES e-learning」構築の一環として、「WebClass」の積極的な運用を行った。

##### <実績・成果>

- ・ 3つの要素が「学外と共有する明確な評価視点」として機能
- ・ 「専門的知識外部試験」「専門的実践力外部試験」の実施により、学修成果を一層客観的に把握
- ・ 学生の授業外学修時間の増加等、教育活動の改善

【今後の取組の計画】

- ＜取組①学修成果を3つの要素で概念化＞  
3つの要素(「専門的知識」「専門的実践力」「総合的人間力」)を「学外と共有しうる明確な評価視点」として継続的に機能させていく。
- ＜取組②学修成果を学内・外の両輪で評価＞  
「専門的知識外部試験」および「専門的実践力外部試験」の全学的実施、「ボランティア・パスポート」の全学的活用を引き続き取り組み、さらなる「学修成果評価の客観性の向上」を目指す。
- ＜取組③学修成果を目に見える形で社会に提示＞  
「学修成果レーダーチャート」(学修成果証明書)を全2年生に導入し、「学修成果を目に見える形で社会に提示」することを目指す。
- ＜取組④教育活動の改善＞  
タブレット活用による「学修支援システムPROPERTIES e-learning」の構築を進展させ、「学生の主体的な学びの促進や学修時間の増加等、教育活動の改善」への取組を継続、発展させることを目指す。

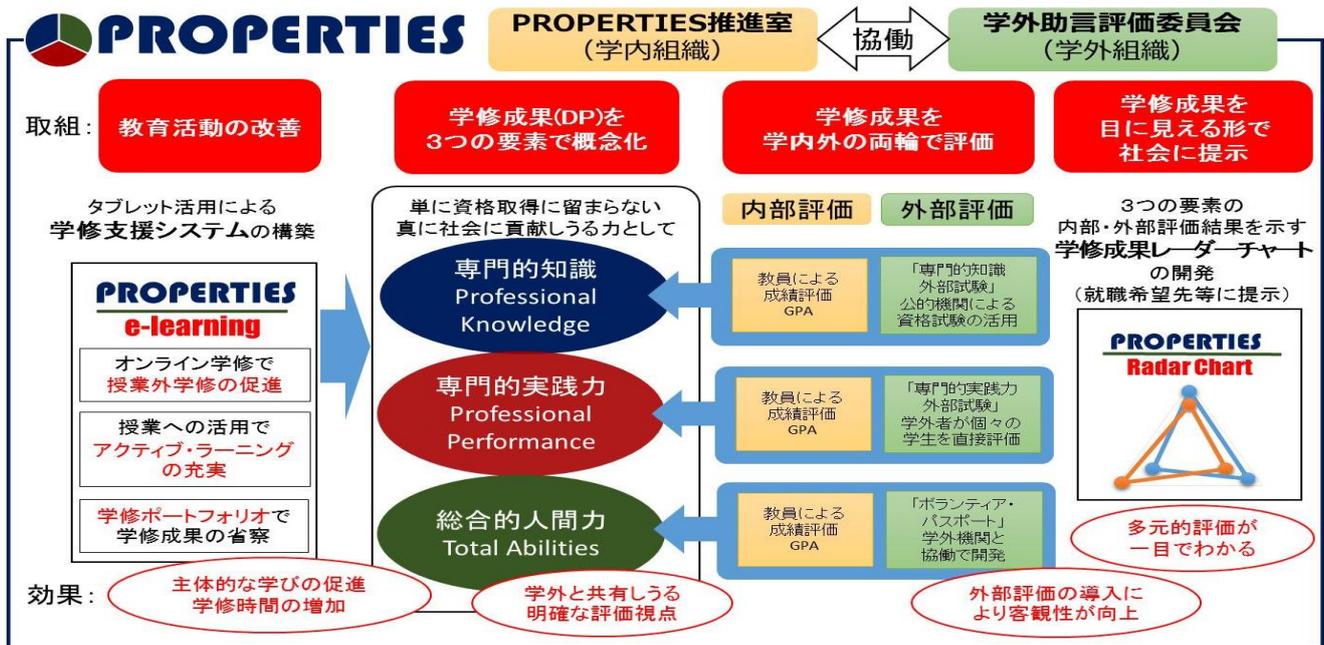
【本取組における成果と社会へのインパクト】

- 学修成果を学内・外の両輪で評価し、社会に見える形で提示していく仕組みづくりに関し、大学と社会(地域)が学修成果を共有し、その向上に協働して取り組むための基盤を構築することができたことは、本取組における成果と考える。学修成果レーダーチャートの導入はもとより、公的機関の資格試験の活用、客観性をもった学外者による個々の学生の直接的評価からなる外部評価は、教育の質を保証する上で有用な手法であるため、他の高等教育機関においても実施可能なものである。今後、同様の取組が広く社会に普及していくことが期待される。

【本取組の質を保証する仕組み】

取組の自己評価は、「PROEPRTEIS推進室」会議および「自己点検評価委員会」を通して実施する。「PROEPRTEIS推進室」会議では、本事業が実施計画にそって実施されているかが点検され、必要に応じて計画の見直しや関連部署への協力要請等が行われる。「自己点検評価委員会」では、取組全体の進捗状況や成果の自己評価が、「本事業の必須指標」「本学独自の事業目標」を踏まえなされる。自己評価結果は、「学外助言評価委員会」に報告され、学外委員から助言評価を受ける。

学修成果を学内・学外の両輪で評価し社会に  
目に見える形で提示していく仕組み



テーマV  
卒業時に  
保証の取組  
の強化  
山梨学院  
短期大学

具体的な実施計画における指標	2016年度 (起点)	2017年度 (実績)	2019年度 (目標)	具体的な実施計画における指標	2016年度 (起点)	2017年度 (実績)	2019年度 (目標)
学生の授業外学修時間 (1週間当たり)	3時間	9.7時間	20時間	学生の成績評価(GPA)	2.65	2.6	2.8
事業計画に参画する教員の割合	100%	100%	100%	「専門的知識外部試験」受験率	100%	100%	100%
「大学教育に満足している」学生の割合	95%	92.4%	95%	進路決定の割合	95%	99%	98%
学修支援システム利用率	100%	100%	100%	質保証に関するFD・SDの参加率	100%	100%	100%